

競 技 注 意 事 項

1 競技規則について

本競技会は、2026 年日本陸上競技連盟競技規則、国内広告および展示物規程、並びに本大会申し合わせ事項により実施する。また、選手権種目(男女 5000mW、リレーを除く)とジュニア男子 110mH は、WRk 対象種目である。

2 競技者の招集について

- (1) 招集所は KUROKIRI STADIUM 第 2 ゲート、スタンド下に設ける。
- (2) 招集開始時刻および招集完了時刻は、競技順序に記載された時刻とする。

① 各種目の招集開始時刻および招集完了時刻は、その競技の開始時刻を基準とし、下記のとおりとする。

種 目	招集開始時刻	招集完了時刻	種 目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	4 0 分前	2 0 分前	棒高跳	1 1 0 分前	9 0 分前
フィールド競技	7 0 分前	5 0 分前			

② 混成競技の招集開始時刻(2 種目以降) および招集完了時刻は、下記のとおりとする。

混成種目	招集開始時刻	招集完了時刻	混成種目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	3 0 分前	2 0 分前	棒高跳	7 0 分前	6 0 分前
フィールド競技	5 0 分前	4 0 分前			

③ 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該種目を欠場したものとする。

(3) 招集方法

- ① 競技者は、招集所で競技役員の点呼を受けること。その際、アスリートビブス・競技用靴・スパイクの長さ・数・商標の点検を受けること。代理人による点呼は認めない。
- ② 多種目を同時に出場する競技者は、1 種目の招集完了時刻 30 分前までに所定の「多種目同時出場届」(TIC に用意)を TIC へ提出すること。提出後は、最初の種目の招集時に、2 種目以降で使用するスパイク等の確認も同時に受けること。種目間の移動は、マーシャルの指示に従うこと。
- ③ 各種目を欠場する場合は、招集完了時刻 30 分前までに所定の「欠場届」(TIC に用意)を TIC へ提出すること。
- ④ 混成競技の実施日最初の種目については、招集所にて競技順序に示した招集時間で招集を行う。招集完了時刻に次種目以降については、混成競技係の指示に従い競技順序に示された招集完了時刻に混成競技選手控え場所に集合すること。
- ⑤ TR6.3.2 により競技エリア内に持ち込みが禁止されている携帯電話・電子機器・通信機能のある腕時計等を招集所に持ち込まないこと。万が一、持ち込んでしまった場合は、必ず招集所の競技役員に預けること。預かった持ち物は TIC で返却する。

3 アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは、主催者が 2 枚配付する。
- (2) 着用については、TR5 を厳守し、胸背部に、跳躍競技の出場者は胸背部のいずれか一方のみに確実に付けること。
- (3) トラック競技に出場する競技者には、写真判定用の腰ナンバー標識を 2 枚、招集時に配付する。
- (4) 競歩種目については、招集所にて別に配布するアスリートビブスを胸部につけること。その際、正規のアスリートビブスを背部につけること。また、混成競技の最終種目では、混成競技係から配布されるアスリートビブスを胸部につけること。

4 競技エリア (FOP) への入退場について

- (1) 招集後の競技場内への入退場は、すべて競技役員の指示・誘導による。
- (2) 競技終了後は、競技役員の指示に従い、第 1 ゲートから退場すること。なお、決勝において 1～3 位の入賞者は入賞者待機所に誘導する。

5 レーン順・試技順の抽選並びに番組編成について

- (1) トラック競技のレーン順およびフィールド競技の試技順は、主催者が抽選で決定し、プログラム記載の通りとする。
- (2) トラック競技の決勝の組み合わせおよびレーン順は、TR20.4に従う。ただし、9レーン使用時は〔国内〕ルールで行う。結果は、大型スクリーン、アナウンスおよび宮崎陸上競技協会ホームページ速報サイトで発表する。
- (3) トラック競技における次ラウンド進出者を決める際に同成績があった場合は0.001秒単位で着差判定をして、それでも同じであれば、空きレーンがある場合は次ラウンドへ進出する。空きレーンがない場合は抽選により進出者を決める。
- (4) 抽選が必要な場合は、アナウンスによる連絡をし、TICにおいて当該競技者あるいは代理人による抽選を行う。
- (5) 事前に大会を欠場することがわかっている場合は、大会2日前までにチーム監督（コーチ）を通じて欠場届を提出すること。欠場者によっては種目の番組を再編成する可能性もある。

6 競技および競技方法について

- (1) トラック競技について
 - ① トラック競技は、すべて写真判定システムを使用する。
 - ② 短距離種目では、安全のためフィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーンを走ること。
 - ③ 5000m以上のトラック種目において、1組20名を超える場合はグループスタートを行う。
 - ④ 一般男子100mおよび200mの決勝は2組で行い、A決勝は1位～8位、B決勝は9位～16位を決定する。
ジュニア種目の決勝は、タイムレース決勝とする。
 - ⑤ 競歩種目のRC表示盤は、プログラム記載のレーンナンバーで表示する。
- (2) リレー競技について
 - ① リレーに出場するチームは、所定の「リレーオーダー用紙」（TICに用意）に記入のうえ、各ラウンドの第1組の招集完了時刻の1時間前までにTICに提出すること。ただし、オーダー提出後の変更については、主催者の指定する大会医師の証明がある場合のみ認める。
 - ② 4×100mRにおいて使用するマーカーは主催者が用意する。レース後、マーカーの除去を行う必要は無い。
- (3) フィールド競技について
 - ① フィールド競技の競技場内での練習は、次の通りとする。進行状況等により回数を変更する場合がある。
走高跳、走幅跳、三段跳、やり投：試技順に足合わせ1回、練習1回。
棒高跳：試技順に足合わせ1回、練習2回（ゴムバーを使用する）。
砲丸投、円盤投、ハンマー投：試技順に練習1回。
 - ② 跳躍・投てき種目で使用するマーカーは主催者が用意する。
 - ③ 棒高跳の競技者は、自分の希望する支柱（アップライト）の位置を変更したい場合は、バーがセットされる前に担当競技役員に申し出ること。試技時間のカウントが開始された後は、支柱（アップライト）の位置をそれ以上変更することはできない。（TR28.1）
 - ④ 三段跳の踏切板は、女子三段跳は10m、男子三段跳は13mの位置に設置する。
 - ⑤ 跳躍競技において競技開始後は、天候や風向風速によるピットの向きの変更は原則行わない。
 - ⑥ ジュニア男子走高跳、ジュニア男女円盤投についてはAKAKIRI FIELDで競技を実施する。
 - ⑦ フィールド競技ジュニア種目の測定距離について、以下の記録に満たない記録は計測せず無効試技とする。

男子走幅跳	6m20	男子砲丸投	11m00	男子円盤投	33m00
男子やり投	45m00	女子砲丸投	9m00	女子円盤投	28m00
- (4) 助力について
 - ① 競技者に対する助力については、TR.6に準ずる。
 - ② フィールド競技に出場している競技者が、試技の確認のために指定されたコーチングエリア付近で、タブレットやスマートフォン等を受け渡すことは可能とする。その際に各自で用意した紐や袋等を使用することは認めるが、受け渡し時には、事故等が発生しないよう十分に留意し、確認後は直ちにコーチ席等に戻すこと。万が一事故などが発生しても、主催者は一切責任を取らない。

7 走高跳・棒高跳の練習および競技中のバーの上げ方について

- (1) 最後の一人になり優勝が決定するまでは次の通りとする。(ただし、天候等の状況により変更することもある。)
ただし、ジュニア男女走高跳については、高さの違う2ピットで競技を行う。跳び始めの高さは、申込の通りとする。

一般男子走高跳	1m80・2m00 (練習)	1m85 - 1m90 - 1m95 - 2m00 (以降 3 cm)
一般女子走高跳	1m50・1m70 (練習)	1m55 - 1m60 - 1m65 (以降 3 cm)
一般男子棒高跳	4m00・4m50・5m00 (練習)	4m20 - 4m40 - 4m60 - 4m70 - 4m80 - 4m90 - 5m00 (以降 5 cm)
一般女子棒高跳	2m60・3m10・3m60 (練習)	2m80 - 3m00 - 3m20 - 3m30 - 3m40 - 3m50 - 3m60 (以降 5 cm)
ジュニア男子走高跳	1m70・1m85 (練習)	1m75 - 1m80 - 1m85 - 1m90 - 1m95 (以降 3 cm)
ジュニア女子走高跳	1m40・1m55 (練習)	1m45 - 1m50 - 1m55 - 1m60 (以降 3 cm)

- (2) 混成競技走高跳、棒高跳の練習および競技中のバーの上げ方は、次のとおりとする。

男子十種走高跳	1m50・1m80 (練習)	1m55 - 1m58 - 1m61 - 1m64 - 1m67 - 1m70 (一律 3 cm)
男子十種棒高跳	2m50・3m00・3m10 (練習)	2m60 - 2m70 - 2m80 - 2m90 - 3m00 (一律 10 cm)
女子七種走高跳	1m25・1m45 (練習)	1m30 - 1m33 - 1m36 - 1m39 - 1m42 - 1m45 (一律 3 cm)

8 競技用具について

- (1) 競技に使用する用具は、棒高跳用ポール以外はすべて主催者が用意したものとする。ただし、競技場に備え付けられていない並びに数が1つしかない「やり」(投てき用具一覧参照)については1人1本の持ち込みを認める(※日本陸連検定品かつWA認証品に限る)。その際、希望者は競技開始時刻の2時間前から1時間10分前までに、招集所付近に設置するTICに持ち込む投てき用具とともに「投てき用具検査申請書」(TICに用意)を提出すること。持ち込みを受け付けたやりについては「預かり証」を発行する。やりは競技終了後にTICで「預かり証」を確認のうえ返却する。

※混成競技の競技者で、個人のやりを使用する場合は、混成競技係に事前に連絡し、前の競技終了後やりを預け、検査を行ってもらうこと。

- (2) 検査に合格したやりについては主催者が借り上げ、参加競技者間で共有できるものとする。万が一、やりが破損しても主催者は一切の責任を負わない。

9 競技用靴について

- (1) 競技用靴は各自でWAのシューズリストで確認すること。また、靴底の厚さについては、TR.5を参照すること。

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical/shoes/>

(競技用シューズの承認状況 <https://certcheck.worldathletics.org/>)

- (2) 使用された靴に関して審判長が疑義を抱いた場合、競技終了後に提出を求めることがある。

10 結果発表と抗議について

- (1) 競技結果については、大型スクリーンに「OFFICIAL」と表示された時点で正式発表とする。併せて「宮崎陸上競技協会ホームページ速報サイト」にも掲載する。
- (2) 発表された結果に対する抗議は、競技規則TR8に定められている時間内(同一日に次ラウンドが行われる場合にはアナウンス後15分以内、それ以外は30分以内)に、競技者自身または代理人が、TICの担当総務員に口頭で申し出ること。審判長が再度検証し、担当総務員を通じて裁定を通知する。この裁定に不服がある場合は、「上訴申立書」(TICに用意)に記入のうえ預託金20,000円を添え、審判長裁定から上記同様の定められた時間内にTICに申し出ること。「上訴申立書」による抗議裁定の結果は担当総務員を通じて伝える。抗議が却下された場合、預託金は返金しない。

11 WRk・国際ルールに関する補足

(1) 国際ルールが適用されるにあたって特に注意すべき事項

走高跳および棒高跳では、同時申込により異なる順序で試技を行うことを認められた場合について、その試技時間に競技者が不在の場合はパス扱い（-）とする。（TR4.3）

(2) 国際ルールが適用されない項目

① トラック種目、フィールド種目ともに現場での抗議（競技中の抗議）は認めない（TR8.4.1 および 8.5 は適用しない）。

② エントリー種目を欠場、棄権した場合も、その種目以降の種目に参加することができる（TR4.4 は適用しない）。

12 表彰について

(1) 各種目 1～3 位までの入賞者（リレーは 1 チーム 4 名）を表彰する。

(2) 3 位までの入賞者は、競技終了者待機所から競技役員の誘導で入賞者待機所まで移動すること。

(3) 表彰時は、チームのシャツ、ジャージ等を着用すること。

(4) 入賞者待機所および表彰時においても、携帯電話・電子機器・通信機能のある腕時計など類似機器の持ち込みおよび使用は原則認められない。

(5) 優秀選手賞については、昨年度日本陸連 100 傑を参考に、男子 1 名、女子 1 名を決定し、全競技終了後、表彰する。

13 練習について

(1) 別掲「練習会場日程」に基づき練習することができる。なお、練習にあたっては、競技役員の指示に従うこと。ただし、実施種目の状況により日程等変更する場合がある。

(2) 練習は、各個人が指定された場所・時間で行い、事故防止には万全を期すこと。なお、練習中に発生した疾病・傷害等の応急処置は主催者が行うが、以後の責任は負わない。

(3) 練習に必要な用器具は主催者が準備するが、投てき用具は各自持参したものを使用すること。

(4) 荷物等の管理は、各自が責任をもって行うこと。万が一、紛失・盗難があっても主催者は一切の責任を負わない。

(5) 練習会場の入退場時は、必ず AD カードを明示すること。

(6) 各練習会場での練習の順番待ちは当該選手のみとし、それ以外は認めない。

(7) 混成競技のフィールド競技の練習については、本競技場内での次の競技の練習を認める。

14 個人情報の取り扱いに関して

(1) 本大会に関して寄せられた個人情報は、本大会の目的以外には使用しない。

(2) 本大会が認めた報道機関により撮影された写真や動画が、新聞・雑誌・大会報告書・ホームページ等で公開されることがある。

(3) 本大会が認めた報道機関が撮影した映像が、中継・録画放送されることがある。

15 その他

(1) 各競技場等の開門時間は午前 7 時 00 分、閉門時間は競技終了 30 分後を目安とする。

(2) 棒高跳用ポールを返送する場合は、8 月 23 日（日）午前中までに TIC に指定の送り状を張り付けて持参すること。

(3) 弁当の引き渡しおよび回収は（株）TEAM の指示により行う。

(4) ゴミ類は、各自で責任をもって持ち帰ること。

(5) 写真・動画の撮影に関しては、本プログラム「競技会における撮影制限について」の注意事項に従うこと。

(6) 記録証明書の交付を希望する競技者は、「記録証明書申込」を 1,000 円を添え、TIC 提出すること。「記録証明書申込」は、TIC に用意する。

(7) 競技者およびチームの監督・コーチには、AD カードを発行する。競技場内を移動する場合は、必ず AD カードが確認できるように携帯すること。